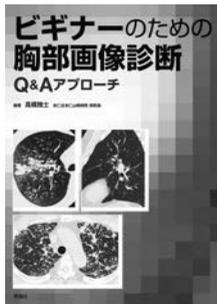




ビギナーのための胸部画像診断 Q&A アプローチ



編著：高橋雅士

学研メディカル秀潤社

2016年4月刊行

B5判 220ページ

定価：本体4,800円(税別)

胸部画像診断の書籍は、それぞれのニーズに合わせてこれまで数多く出版されているが、編集も多数手がけてこられた高橋雅士氏企画の本書籍はQuestion & Answer形式で、見開き2ページが基本になっており、親しみやすい構成になっている。Questionは、単なる所見や疾患名だけでなく、読者が所見を的確に拾い鑑別診断を進めていくアプローチの中で、基本からハイレベルまで読影に役立つ設問が幅広く親切に設定されている。

Answerでは、まず一目でポイントがつかめる簡潔明瞭な回答がなされ、その後厳選された豊富な高画質画像とともに、読影のポイントが丁寧かつ簡潔に解説されている。さらにわかりやすいシェーマや表も随所に盛り込まれており、理解を助けてくれる。

基礎的な事柄としての解剖、用語、サインからはじまり、腫瘍性病変、感染症、びまん性肺病変、心血管性病変、先天性病変、外傷と続き、最後に、「知っているに役立つ事柄」として、「症例検討会で困らないために」では知っておくべき稀ではあるが重要な8つの疾患が取り上げられており、「呼吸器の検査値」では感染症やびまん性肺疾患の検査データの読み方のコツに及ぶまで行き届いた解説がなされている。

B5判220ページとほどよい分量で、つい手に取って読みたくなる本である。あたかも読者と教育熱心な執筆者が直接会話しているような読み応えと学問的欲求を満たしてくれる構成・内容になっており、どこから読んでも「すーっと」入っていける。「ビギナーのための」という枕詞がついており入門書・指南書のようなものであるが、ポイントを押さえた本格的な書籍で、読影に必要な事項が過不足なく網羅されている。「ちょっと一言」では、エキスパートが伝えたい勘どころが行間ににじみ出ている。「これは必読！」では、厳選された上質の文献が最大4つまで紹介されており、さらに理解を深めることができる。

各分担任執筆者は、胸部画像診断領域で活躍されている専門家ばかりである。編者の意図に沿って、基本や核心を初心者にも如何に効率よく伝えられるかという思いで執筆されており、意気込みが感じられる一冊である。本書を読めば、胸部の画像診断がきっと好きになるに違いない内容ばかりで、ずばり推薦したい書である。

(山口大学大学院放射線医学分野 松永尚文)

